

主要科目の特長（国際文化学部国際文化学科）

国際文化学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

（1）NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来になりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実は、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、全学生に配付したノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

(2) 専門科目

(1) 語学科目

《語学科目》は、英語その他の語学について、様々な角度から語学能力や関連の知識をつけることをめざして、必修科目として「基礎英語 1・2」「英語表現 1・2」を配置している他、選択科目として以下の科目を配置しています。

「英語演習 A～L」「TOEIC 英語基礎 1・2」「TOEIC 英語実践 1・2」

また、選択必修科目として、ドイツ語、フランス語、スペイン語および中国語について、それぞれ 8 科目ずつ 1・2 年次に配置しています。

(2) 言語文化科目

《言語文化科目》は、第 2 外国語にあたる言語の知識を深めながら語学能力を向上できるよう、選択科目として以下の科目を配置しています。

「ドイツ語で学ぶドイツ文化・事情」「フランス語で学ぶフランス文化・事情」「スペイン語で学ぶスペイン文化・事情」「おもてなし中国語」「実践中国語」「コミュニケーション中国語 1・2」「映画で見る中国語」「生活中国語」「日常中国語」「中国語検定読解入門」

また、アジアの複数の言語や文化についての科目として、韓国語、フィリピン語、インドネシア語に関する科目や、「ことばと音声」「日本語学概論 1・2」等、言語的な知識を深めるための科目も置かれ、自由に選択できるようになっています。

(3) 基幹科目

《基幹科目》は、国際文化学修の根幹をなす重要な科目を集めています。必修科目の「国際文化論」で文化のあり方の基本を理解した上で、選択科目として以下の科目を配置しています。

「異文化コミュニケーション論」「比較文化・社会論 1」「比較文化・社会論 2」「多文化共生社会論」「国際関係論」「キリスト教文化論 1・2」「グローバル社会文化論」「国際環境論」「国際協力論」「国際機構論」「NPO・NGO 論」「比較宗教論」「情報文化論」「人間行動論」「比較認知科学」「比較行動学」「宗教人類学」「宗教と平和」

(4) 日本文化科目

《日本文化科目》は、日本の歴史や伝統文化などを多角的な視点から学ぶことで、グローバル社会の中での日本文化を深く理解することが可能となります。選択科目として以下の科目を配置しています。

「日本の国宝・文化財」「日本の思想」「日本の民俗学」「日本社会論」「日本地域史論」「日本対外関係史」「日本のポップカルチャーとアジア」

(5) 欧米文化科目

《欧米文化科目》は、アメリカ、ヨーロッパをはじめとする欧米文化圏について、地域的文化・宗教・生業などの多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解するとともに、文化の成立・変容・地域化などを学ぶことが可能となります。選択科目として以下の科目を配置しています。

「英米文学概論」「英米文学史」「欧米文化総論」「欧米地域文化論 A～C」「日欧交流史」「環太平洋地域研究」

(6) アジア文化科目

《アジア文化科目》は、アジア文化圏について、地域的文化・宗教・生業などの多面的な視点から学ぶことで、グローバル社会の現状を広く理解するとともに、文化の成立・変容・地域化などを学ぶことが可能となります。選択科目として以下の科目を配置しています。

「日本アジア交流史」「現代中国事情」「中国文化社会論」「現代アジア文化社会論」「南アジア文化社会論」

「日中関係論」「東西交渉史」「中国社会経済論」「アジア政治経済論」「アジア地域研究」「イスラム世界論」

(7) 国際協力科目

《国際協力科目》は、貧困・格差、環境、人権、平和・戦争・テロ、差別、ジェンダー、移民・難民など、世界が直面する課題を理解し、多文化理解や持続可能な社会形成に向けた対応を学ぶことが可能となります。以下の科目を配置しています。

「ジェンダー論」「国際人権論」「国際平和学」「世界遺産論」「開発社会経済論」「国際移民論」「国際福祉論」

(8) 関連科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する中・長期留学に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学やスタディツアーでの学修は、「海外事情 1～4」などで認定されます。

また、様々な資格や検定試験に挑戦した成果を認めるための「国際文化能力開発 1～3」を配置してあります。

(3) 演習科目

学部の《演習科目》の内、必修科目は、2年次の「国際文化基礎演習 1・2」および3・4年次の「演習」です。

「国際文化基礎演習 1・2」では広く国際理解・国際交流に関する自主的学習のための基礎を形作ります。「演習」では、担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。「演習」の選択にあたっては、学生のみなさんが希望する教員・専門的分野を選択し、教員の選考を経てゼミの一員となることができます。

また、「スタディツアー」と関連つけられた選択科目である「国際文化協力実習」においては、国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションなどを学びます。

◎専門科目の一部をピックアップ

国際文化論

東南アジア・フィリピン、ヨーロッパ・ドイツの2カ国を例に、文化的特徴を論じ、国際的な文化への理解を深めます。文化を比較する視点を養い、文化交流に必要な態度を身につけることを目指します。

主な身につく力



異文化コミュニケーション論

言葉やコミュニケーションとは何か、異文化間コミュニケーションにはどのような姿勢が必要かを理解します。また、異文化が接触するとき何が生じうるか、それをどう理解すべきかを考えます。

主な身につく力



日本文化論

外国の文化を学ぶための基軸として、まず日本の文化の特徴を理解しておく必要があります。この講義では、外国人から見た日本文化、日本国内での文化の地域的違い、などの観点から日本文化の特徴を講義します。

主な身につく力



国際平和学

様々な暴力をなくし、公正な社会や平等な権利の実現を目指す学問。グローバル化が進む現在、世界で起きていることが私たちと無関係でないことを理解し、マイノリティや弱者に対する想像力と共感力を養います。

主な身につく力

